

▶ 昨年度助成団体

ベンチがあるまちのなかの楽しい公園の様な散歩道

練馬地域福祉ハートフルアクターズ

○ベンチを利用したオリエンテーリング・ゲームで巡るまち  
石神井地域には高齢者が多く、商店街に行く途中の道路で休んでいる人を見つける。気軽に休めるベンチがあったり、花が見られれば、心と楽しく歩いたり散歩したりできると考え、企画した。前回の助成では12台のベンチを設置したが、新たに石神井地域と隣接地域にベンチ20台を配置し、これを利用したオリエンテーリングゲームを開催したい。子どもが描いた絵をベンチに取り付け、カードを発行し、これを見ながらベンチを回っていく。商店街の方から商品の提供等あるとうれしい。これによって地域に愛着を持ち、またまちの中が公園のようになったらと願っている。

【質疑応答】

Q昨年度設置したベンチが地域の中でどう発展していくかモデルを作っていたが、新しくベンチを増やす発想の経緯は？  
→まちの中で要望がまだある。また、周辺地域に広げ、ベンチを

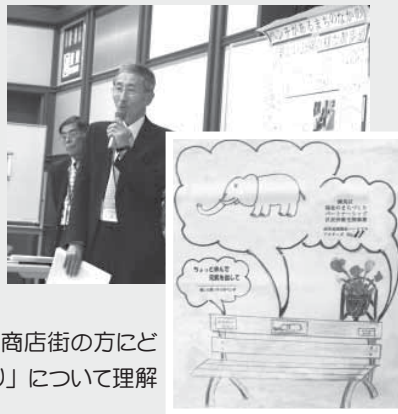
巡るコースを作っているという構想がある。

Qオリエンテーリングゲームはどういう人達に呼びかけていこうと考えているか？

→まだ企画段階だが、地域の小学校に呼びかけ、障害者の方と交流を持っていきたいと考えている。

Qベンチを置かせていただく商店街の方にどのように「福祉のまちづくり」について理解していただくのか？

→ベンチを置く意味を説明していく。また、商店街の中を障害者の方と歩く姿をみていただいてアピールしていきたい。



▶ 地域と障害者をつなぐステップ・ガーデン

ステップ・ガーデン

○障害の有無をこえた地域の人達の交流の場を

ステップガーデンは今年1月にオープンした施設で、障害の有無を問わず地域の人たちの交流の場と障害者支援活動をおこなうところである。現在はリサイクルショップとして運営しながら、知的発達障害者が自信をもって生きていくための教室や講座を行い一般の方との交流ができたかと考えている。

【質疑応答】

Q卓球台の購入が予算に載っているが、大きいものなので、置けるスペースについて検証しているのか。  
→スペシャルオリンピック（知的発達障害のある方たちのスポーツの祭典）の指導員（練馬区在住）の方にみてもらっており、大丈夫との確認をもらっている。

Q予算に載っているフタタッチスロープは電動車イスなどは使いづら

いと思われる。

→カタログでの調査がしていなかった。

是非助言をいただきたい。

Q「支える会」との関係は。

→メンバーが長年やっていたケーキ教室の収益をもとに資金をもっている会である。



▶ 昨年度助成団体

まちなか「ほっとベンチ」設置

練馬駅南口ほっとベンチ協議会

○人にやさしいほっとベンチのある街

昨年は「おとり様商店会ひと休み研究会」としてほっとベンチを10台設置し、地域の人たちの休憩場所として利用してもらった。今年は練馬駅前中央通り商店会を中心にエリアを拡大し、名称も「練馬駅南口ほっとベンチ協議会」に変更した。

地域内には障害者施設や子育て支援施設もあるので、障害者や妊婦・子ども、お年よりが安心してひと休みできる“ほっと和める空間”を増やしていきたい。子どもたちや障害者が描いた絵やイラスト入りのベンチカバーも付いて、放置自転車対策にプランターも設置するなど、見た目にもきれいで歩行者にやさしい街づくりをめざす。

【質疑応答】

Q昨年に続く、ベンチ設置は、どこまで拡大するのか？

→将来的にはエリアを千川通り商店会まで拡大の予定。保健施設や福祉施設があるエリア内で貢献していきたい。

Q. 折りたたみの可動式ベンチは、視覚障害者にとっては危険障害物となりがねないので、視覚障害者の方とよく話し合って検討する必要がありますか？

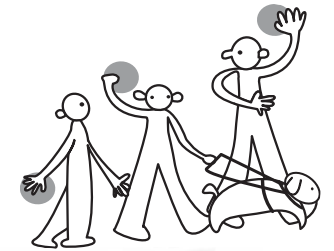
→実際には店舗敷地内に設置しているが、検討する。

Q. ベンチ設置で交流が深まっているのは良いこと。ただ、ベンチの設置=まちの活性化に繋がっているという訳ではないのでは。商店街のイベントの中での“ほっとベンチ”の存在の方が、エリアを拡大した意味があるのではないだろうか。



▶ PART 3

審査員&みんなのコーナー



審査委員長の講評から

今日参加された皆さんは、助成を受ける受けないに関わらず、「練馬のまちをすてきなまちにしよう」という志を持った人たちです。区内のまちをより良くしていくのは「人」であり、その担い手が皆さんであると思います。皆さんの活動を練馬区に広げていってほしいのです。区民の皆さんが一人ひとり練馬のまちを変えるんだと思うことが大切です。

今回エントリーした皆さんは、区とのコネクションができました。「こんな活動がしたい」と区にどんどん相談して、来年度につながる活動を育てていってほしいと思います。また正直な感想としては、もっと大胆な提案をたくさんやってほしいということです。周りに呼びかけたり、自分達のアイデアを他の団体に実現してもらったりしてそれぞれが影響しあっていまいちづくりをしていってほしいと思います。練馬らしい「このまちに住みたい」と思えるまちにしていきたいと思います。

審査について

それぞれの活動は非常に素晴らしいものです。この審査では、提案された企画が区の助成金によってサポートされるにふさわしい具体性をもっているかという観点で評価されています。活動自体の良し悪しで評価されているのではないという視点で見ていただきたいと思います。

(文責：地域福祉課)



委員長  
中野 泰志  
慶應義塾大学教授

期待と抱負

練馬区を住みやすい、やさしい町にしようと思いを絞るみなさんの企画提案を審査するという大任を重く受け止めています。応募者のみなさんにはますますがんばろうと思っていただけるように、またひとりでも多くの方に福祉のまちづくりへの活動に参加していただけるように、支援できることは何かを考えていきたいと思います。



林田 道子  
親教育講座ファシリテーター  
・NPO法人JAMネットワーク  
副理事長

審査員バトンタッチ!

平成18年度審査委員

千葉 勝恵  
NPO法人手をつなご  
理事長

開町地域で子育て支援に携わって10年目、審査員などおこがましい事でしたが、練馬区全体を知り得ていないという反省、学べという指導の声にも聞え、お引き受けしました。多くの活動とバトンに触れ、感激もし、学びの場として有意義な経験をさせていただきました。練馬区の未来は、住民サイトがあり、地域活動の積み重ねが行政のキーポイントになると感じました。

審査委員のみなさん

公開審査会の審査委員のみなさんをご紹介します



副委員長

饗庭 伸  
首都大学東京 研究員



関 和子  
NPO法人練馬ぼそぼらん  
副理事長



山岡 正義  
東京商工会議所練馬支部  
統括相談役



仲倉 重郎  
練馬区身体障害者福祉協会  
副会長



榎本 博夫  
練馬区健康福祉事業本部  
福祉部長



室地 隆彦  
練馬区環境まちづくり事業本部  
まちづくり調整担当部長